

令和4年度
妹背牛町総合教育会議

1. 開 会 日 令和5年1月26日(木) 午前10時
2. 閉 会 日 令和5年1月26日(木) 午前11時10分
3. 場 所 妹背牛町役場庁議室
4. 事 件

1. 学校建設について
2. その他意見交換

5. 出席者

町 長	田 中 一 典
副 町 長	滝 本 昇 司
教 育 長	廣 澤 勉
教 育 長 職 務 代 理 者	前 田 靖
委 員	中 易 利 則
委 員	木 山 ひとみ
委 員	梶 哲 也

事 務 局 企画振興課長	鎌 田 秀 章
総務課長	北 口 信 彦
財務G主幹	愛 山 智 弘
教育課長	山 下 英 俊
学校教育G主幹	川 上 善 樹
学校教育G主幹	下 谷 順

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発 言 者	発 言 内 容
企画振興課長	<p>おはようございます。本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。始めにお断りいたしますが、本会議につきまして議事録作成のため発言等を録音させていただきますことをご了承願います。</p> <p>それでは、只今から令和4年度妹背牛町総合教育会議を開会いたします。</p> <p>開会にあたりまして、町長よりご挨拶申し上げます。</p>
町長	<p>みなさん、おはようございます。</p> <p>令和4年度の総合教育会議の開催を呼びかけさせていただきました。教育委員の皆さんには何かとご多用のところ、ご参集いただきまして感謝を申し上げます。現在までに各種検討委員会を既に3回ほど開催いただき、労力を傾けていただき教育長への答申をまとめる段階にあると伺っております。また、昨年12月には3年ぶりとなります町政懇談会を開催し、各地区におきましても小中統合校の建設、小中一貫教育の検討についての進捗状況の説明をしまいたところですが、しかしながら、第9次妹背牛町総合振興計画の目玉でありました統合校の建設計画の実施に係る基本設計の予算推計値を教育委員会から昨年の12月に再度提出いただいた段階で、当初の推計値を大幅に超える試算が出されました。もちろん、ロシアウクライナ紛争のあおりを受けての資材や燃料を含め、様々なものの値上がりを受けていることも見逃せませんが、そのため財政推計を綿密に行ったところでございます。今後の方向性について、今日の会議でみなさんに説明させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
企画振興課長	<p>ありがとうございました。ここからは、町長が議長となり進行いたしますので、よろしくお願いいたします。</p>
町長	<p>それでは慣例によりまして、この総合教育会議の議長は私がやらさせていただきます。まず、財政上の状況につきまして副町長より、ご説明をさせていただきます。</p>
副町長	<p>それでは、私のほうから説明をさせていただきます。失礼かと思いますが、座ったまま説明をさせていただきます。学校建設事業につきましては、令和2年度からスタートしております第9次総合振興計画に基づきまして、その準備を進めておりました。資料にはございませんが、計画では令和6年度から11年度までの期間で、中学校解体費を除く事業費を約18億円と見込んだうえで計画期間中の収支のバランスを考慮いたしまして、事業費を8割に減額した金額、約14億8千万円を事業費として予定しておりました。この事業費でございますが、お配りの資料別紙1になります。新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響などから建築資材の高騰をはじめ、物流費・人件費の高騰を受けまして、令和5年度に計画の基本構想から10年度に計画するグラウンド整備までの事業費が約31億円、また12年度以降の解体工事を含めると総事業費が約42億円と算出されました。このうち令和11年度までの事業費、31億円の財源内訳になりますが、国からの補助金が約14億円、借入金である起債、過疎債になりますが約16億円、町の持ち出しが約1億円で、解体関係につきましては令和12年度以降として、新たに事業費を見直したのがこの資料となっております。次に資料2になりますが、こちらは第9次総合振興計画の期間における財政推計で、令和11年度までの推計となっております。このうち、上段でございますが当初の事業費、約14億8千万円として試算したもので、矢印の上になるんですけども、下から3つ目、収支についてもマイナス赤字にはなっておりません。一方、下段、黒の矢印から下の部分になりますが、こちらは別紙1による事業費の31億円に置き換えての財政推計になります。下から3つ目の収支になりますが、令和6年度7年度9年度10年度につきましては、財政調整基金、いわゆる貯金ですが、この基金から約7,700ほどを取り崩したしまして、赤字分を補填し収支をゼロとしております。また、12年度以降の工事関係、学校の解体になりますが、総額で11億円、このうち町の負担額を4億円と予定する中、解体につきましては起債の借入れが出来ません。そのため、先ほどの財政調整基金を取り崩して財源に充てるしかなく、令和11年度基金残高の約5億7千万円は、ほぼなくなってしまう。さらに学校建設にかかる起債、借入金の償還がスタートした場合、資料2の一番下に起債償還関係として令和11年度以降の償還について載せておりますが、令和15年度以降の償還額、右側の実質負担の欄にありますとおり、年間約2,800万円が増加となります。令和12年度以降の建設事業費の集約はまだのため、現時点では12年度以降の財政推計を示すことは出来ませんが、このまま事業を進めますと少なくとも国営土地改良事業とペール改修にかかる借入れ金の償還と重なってしまっていて、令和15年度から17年度までが一番のピークを迎えることとなり、財政運営が非常に厳しくなることが想定されます。このような財政的な事情から、今回の学校建設事業、令和10年度開校に向けた建設計画は凍結とさせていただき、今後は学校建設基金といったものを創設しながら、安定した財政状況の中で進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解をいただきますようお願いいたします。私のほうからは簡単ですが、以上となります。</p>

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発言者	発言内容
町長	<p>それでは次に教育委員会のほうから、現在までの進捗状況についての説明をお願いします。</p>
教育課長	<p>後からお配りしておりますA4の裏表の資料になります。只今の説明を受けまして、教育委員会として今後の業務をどのように進めていくのかということで、いくつか確認をさせていただきたいということで、資料にそって説明をさせていただきたいと思います。まず、一つ目の検討委員会の状況ということで、小中学校及び町民会館施設整備検討委員会と小中一貫教育検討委員会、この二つを今設置して動いている状態でございます。実績につきましては、それぞれ3回会議を行っております。第2回の検討委員会において、教育長よりそれぞれここに記載されているとおりの諮問を受けてございます。その後、第3回検討委員会まで内容を検討しておりますけれども、ここに書いてあるとおりであり、施設検討委員会につきましては、次回で答申をまとめるような方向、小中一貫教育検討委員会につきましては、ほぼ答申が出来上がったような状況というふうになってございます。表の一番下にありますとおり、当初の予定では令和5年の2月に教育長へそれぞれ答申をし、総合教育会議に諮り、議会説明をするというような予定でございました。重複しますけれども、その下にありますとおり両検討委員会は教育長への答申をまとめる段階、特に小中一貫教育では答申の方向は決まっております、今後この検討委員会の取り扱いをどのようにしていくのかというのが、まず一つ問題になっております。その下にもありますとおり、議会に早い段階での説明が必要、ここが終わらないととりあえず他の部署は何も進むことが出来ない。また、町政懇談会において住民周知を行っていることから、住民に対する説明も必要になってくるというふうにご覧いただけます。二つ目につきましては、妹背牛町教育推進協議会ということで小中学校の教職員の動きでございます。この協議会につきましては、令和4年度に小中一貫校開校に向けて学校現場において、教育環境・備品整備等について計画的な検討をするということを目的としまして、学習環境部会を立ち上げて活動をしてございます。現在まで、先行地の視察など計4回開催しており、次回来週になりますが、1月31日に行きます。内容としては、学校視察を基にした校舎設計に向けての要望検討、小中一貫校新設へ向けてのタイムスケジュールの再検討、教職員説明会の日程調整ということで、教育委員会のほうにも出席をして説明して下さいということで、お話をいただいております、こういうような形ですでに学校も動いております。議会の説明後に、なるべく早い段階で学校にどうなるのかという説明が今必要になってございます。3つ目としまして、現学校施設の整備についてでございます。令和5年度の予算におきまして、両学校においてエアコンの設置を要望したところでございますが、学校建設について方向性が今現在定まっていないということから、5年度においての設置は難しい状況であります。学校建設の一手段として、改築を検討しておりますけれども、学校機能診断の結果を待ってから判断をするということで、令和5年度にもその診断を実施するというお話もありますが、結果が出るまでには半年から1年を要して、その間も施設整備が出来ないということが考えられます。例えば、先ほども説明がありました町の財政推計を基に起債の償還ピークが過ぎてから建設工事に着手する、いつからいつまでは建設工事を凍結するというふうな早い時期に方向性を示していただければ、施設整備計画等も立てやすくなるのではないかと考えてございます。四つ目としまして、建設工事時期について、今ご説明させていただきました1から3の理由などから、学校建設について早急な説明が求められています。特に建設時期については、財政推計をもとに国営事業、ペペル温泉改修事業の償還のピークが過ぎるまで、新築・改築に関わらず建設工事を見送るという判断をしてはどうなのか。例えばでございますけれども、14年に償還のピークが過ぎ、財政的に余裕が出来るのであれば、15年から基本設計に着手する。新築・改築の判断基準となる建築物の劣化等を調べる学校機能診断については、今は実施せずに基本設計の前年くらいに実施することによって、診断結果が基本設計にも活かされるとともに、経費の無駄もなくなるのではないかと考えております。建設工事凍結期間中には、先ほど副町長のお話しにもありましたとおり、学校建設に係る「特定目的基金」を設置して積み立てるなどとして、備えてはいかかなのかというふうなことを考えてございますので、お教えいただければと思っております。以上になります。</p>

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発 言 者	発 言 内 容
町長	このあと、教育委員さんも含めまして質疑応答を始めさせていただきたいと思います。今、教育課長からおっしゃられたことについて、財政のほうから最初にお答えしたほうがいいんですか。どうしますか。建設工事の時期について、財政推計をもとに国営事業とペール温泉の改修の償還のピークが終わってからどうなのかというお話が出ていますけれども、それに今お答えしますか。それとも、いろんな議論の中で最後にしますか。
副町長	財政サイドとしても、償還のピークが過ぎてからということで進めたほうがいいのかというふうに考えております。
町長	それは途中にいろんなことが起こる可能性がありますけれども、最短ということですよ。現時点で、今の流れは凍結するけれども、先ほど教育課長から、ご指摘いただいた起債の償還のピークが過ぎてからということで、現状これここで言ったほうがいいんですか。言うこと出来るんですか。
総務課長	一定程度、今の段階でどの程度の判断が出来るのかというところで、お話をさせていただきます。過去の町の財政状況が非常に厳しかった時期というのが、平成10年代、前半から後半までできておまして、その当時の一番の起債の残高が多かった年度というのが、平成18年で61億円程度の起債の残高がございました。当時、人口が4,000人程度でしたので、一人あたりの借金額が約150万円程度になりました。現在のこの推計値でいきますと、財政のほうで推計した下の表になるんですが、多いところていくと61億円程度、大体その非常に厳しかった年代とかなり酷似する起債の残高になってくる状況であります。当然、起債の残高が増えると償還額も増えますので、公債費という部分では年間4億円5億円と支出が出てくると、そういったことで非常に財政状況が厳しくなるということと、単年度で支出しなければいけない支出も出てくることから、こういったお話をさせていただいたところかというふうに思っています。現状の人口レベルでいくと、本年度で2,700人程度、これが令和8年度くらいの起債が非常に多くなる年度までいくと、2,500人程度になる、人口1人あたり250万円程度の借金を抱えるような状況になってきます。そういったことも含めて、財政状況の平準化ということも必要というふうな形で考えておまして、先ほど教育課長からお話のありました起債の償還のピークでございますが、この部分おっしゃっていただいたとおり非常に厳しいということで、そこを避けて起債の償還が出来るような年次計画を立てるような形で一旦凍結をしていただきたいというような話になっております。その期間を避けて支払いが出来るという年度で考えますと、概ね決定ではないので今の段階ですので、5年から10年を一つの目安で凍結していきたいというのが現状の考え方でございまして、その他にも今後町内の公共施設の修繕事業が多くなってきておまして、当然12年度以降の今計画が副町長からもありましたが、現状としてまだ計画は出ておりませんので、そこを今の段階で推計することは出来ないものですから、そういったことも考えると、今最短で5年にして下さいという形も申し上げられないものですから、5年から10年の期間で凍結と言いますか、開校が出来るように今後検討していくというのが、こちら側からの考え方かなというふうに思っております。
教育長	凍結というか計画から先送りという意味でいいですね。
総務課長	そうです。後ろからぼっていくと、開校の時期が当初いただいた中では令和10年度の開校を目標に8年9年という建設計画でございましたので、それを推計するとこういった形になっておりますので、それを最短で5年先送りすると令和15年度の開校、そうすると建設年度が13年14年になります。あくまでも、これは最短でございます。それを財政状況によりまして、起債の償還が始まる時期とそういったものを計算しまして、5年から10年、10年先送りすると令和20年度開校を目標に計画を策定するというような形になるのかなと思います。概ね教育課長のおっしゃっていただいた例がそこに近いのかなと考えております。

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発 言 者	発 言 内 容
町長	<p>今、総務課長から説明がありましたが、最短の場合で令和15年度の開校、延びた場合で令和20年度くらいということで、だいたい二案の中で揺れ動きながら進めていきたいということで、凍結というのは今の流れを凍結ということで先送りして、教育長がおっしゃったとおりの流れになるかと思えます。教育委員さんのほうには本当に1年近く、ある意味この財政推計をもうちょっと早くお示し出来れば良かったんですけども、いろんな理由から財政を細かく積み上げていく段階が、ちょっと遅れたというのは申し訳なく思っておりますし、皆さん無駄な時間を使わせてしまったという意味では本当に心苦しい思いではありませんけれども、先送りした中でいつかは今の小学校も中学校も替えていかなければならない時期が必ずきますので、そこに向かって健全な財政の中で、現実的に足場を組んで新たに進めていきたいと思っております。今日会議を開催させていただきました。皆さんから忌憚のないご意見をいただいて、この場を進めていきたいと思っておりますので、どうぞご自由に発言をいただきたいと思っております。</p>
教育課長	<p>今、総務課長から最短で令和15年開校、15年度から20年度の間で開校ということでお話がありましたが、この決定と言いますか先送りしますということにつきましては、どのタイミングで公表というか、どのような形で公表するのか、これを受けてはじめて先ほどご説明させていただいた二つの検討委員会をどういうふうな形で検討委員会を終わらせるのか。また学校も今動いていますので、学校のほうにどのように説明するのか。一番最初に議会ですけれども、議会に説明してからはじめて他のいろいろな委員会ですとか部署に説明が出来るものですから、町民の方にもやはり説明していかなければいけないという部分もありますので、15年から20年に先送りするということをどの時点でどのような形で公表するのかというのをお示しいただければと思います。</p>
町長	<p>この流れについて、順番といいますか、追って最終的には町民の方にも周知しないといけないのは事実だと思うんですけども、このスケジュールと順番を確認したいということですね。順番としてはどこからでしょうね。まずは議会に説明して、次にもう動き出しているので学校ですかね。</p>
教育課長	<p>例えば、議会のほうにご説明していただければ、検討委員会や学校への説明はこちらのほうで出来るのかなと考えているんですけども、ただ先送りするという説明は私たちが説明するよりは、やはり町の立場の方から説明いただいたほうがいいのかと思います。ですから、議会にまず説明をする機会を設けていただき、そこから各部署に対して私たちから説明する時期というのは調整出来ますので、そこに町のほうから入っていただいて、説明をいただくというような流れがいいのかなと個人的には思っております。</p>
副町長	<p>議会は2月中ですかね。予算前のほうが良いような気がします。今、局長が出張で不在なので打合せは出来なかったのですが、2月中にはしたほうが良いのかなと思っております。</p>
町長	<p>それを受けて教育委員会と連携を取って、今動き始めようとしている部署に連絡をしていただいて、その後に住民周知ということで、住民周知はどこからどういう形がいいでしょうか。町政懇談会であれだけ大きく説明していますし、議会はきちんと説明出来るからいいとして、住民のほうに財政上の理由で先送りということで何らかの形で広報しないと「どうなったんだ」ということで、議員さんも困っちゃうし、どういう形がよろしいでしょうかね。</p>
教育長	<p>たぶん議員さんに説明したときに、どうやって住民周知するのかという話になると思うので、スペースの関係もありますが、広報誌だとか広くなるべく多くの方が見れるような発信の仕方をしないといけないと思います。ただ、折り込みで入れるだけでは、どうなのかなと。どういう記事にするかという部分も難しいと思うのですが。</p>

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発 言 者	発 言 内 容
町長	どうですかね。広報できちんと報告するのは筋だと思います。現状の財政状況を含めて。
総務課長	順番かなと思います。議会の説明が終わってすぐということにはおそれくならないと言いますか、実際に動かれている委員さんだったり、会議だったり、もちろん先生方であったり、といったところに説明が終わってからということではないでしょうか。
町長	そういう順番になると思います。ただ、あまり時間をあけてしまうとおかしくなってしまうので、議会の説明は、2月のいつ頃になりそうですか。それまでに、学校の会議が進んでしまうような日程では困りますね。
副町長	1月31日の会議というのは、どのように進める予定ですか。
教育課長	そこが一番困っていて、やはり議会の説明前に「実はこうなんです」ということは学校にも言えないだろうというのは正直ありまして、どういふうに説明しようかなというのは本当に困っています。
町長	1月31日に臨時会があるので、局長と打合せをして議員と調整させていただきます。そして、その日のうちに、もし説明が出来たらすぐ連絡いけるようにしたいんですけども、同日ですから、よっぽど連絡を密に取らないと、その前に予定を作ってしまったら、それでぶつかっちゃっている人もいますし。
副町長	1月31日の会議は何時からですか。
教育課長	15時です。
副町長	議会の説明は午前中で終わります。
町長	その場で何か説明に行くということは必要ですか。
教育課長	出来れば、こういうことでと私たちが言うよりはその立場の方から言っていただいたほうがというふうに思っていたのですが。
町長	いいんですけども、その1月31日の会議の場所にそれにあてて使っても構わないのでしょうか。
教育課長	そこは事前に、もしそういうふうに使っていただけるのであれば説明に伺うので、ちょっと時間をいただきますということで話は進めることは可能です。
町長	それでは、この流れで教育委員会と調整して動けるのか出来るのかということですね。こちらに任せてもらってよろしいでしょうか。
教育課長	はい。
町長	そこがやはり一番先ですよ。

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発 言 者	発 言 内 容
副町長	臨時会は30分くらいで終わると思います。補正しかないですから、10分くらいで終わるかもしれません。
町長	その後に行財政等調査特別委員会を開いてもらうということになりますか。それを3階をお願いして、OKをもらった段階でその通知もきちんと連絡させるようにしますので、よろしく願いいたします。
教育課長	はい。わかりました。
町長	行財政等調査特別委員会のほうからは、学校の会議で数字を示しての説明員としては一人でよろしいのですか。
教育課長	私たちが当然出ますので、一人でも二人でもそのへんは何人でもよろしいです。
町長	それでは、後で打合せさせていただきます。一応、その流れの方向に動くということで話をさせていただきます。
教育長	あとは、うちの施設整備だとか小中一貫の検討委員会は、今の流れを組んでこの後の教育委員会の会議で諮って、今後どうするのか立ち止まってもらうのか、それはそれで説明しないといけないけど、一応委員会から諮問した機関なので、この両検討委員会は、それは教育委員会の会議の中で、もう1回検討させてもらうようになります。
町長	教育課長から、さっき二つ目くらいの提案の中にあっただんですけども、今小中の新築・改築をどうするのかという話が出た時に、改築する場合に「耐力診断基準」と言いますか、そういうのがあるんですけども、ある年にやったら何年後かにそのデータを使うことは出来ないで、先ほどおっしゃったように起債の償還のピークが終わって、はじめる時期がきた時に人数を含めてマチの動きがどういう方向に行くかという議論の中で、必要なら中学校か小学校やるべきだとなった段階で診断をすると、それを先送りということで、今受け賜わりたいと思います。そういうことで認識したいと思います。それから、「特定目的基金」の設置というご提案もあっただんですけども、これに関して財政のほうはどういう形で動きますか。
教育長	たぶん基金は委員会のほうで設置条例をあげないといけないと思いますし、うちで決裁をあげて管理は財政ですけど、設置条例自体は委員会のほうでやって、そこでどれくらい積んでいけるかで、財政推計も変わってくる時期もだいぶ影響が出てくるので、どれだけ積み立てられるか。
町長	そこも、目標の数値は逆に言うと財政のほうも示せる状況じゃないんですね。
副町長	出来れば、先ほど言った起債のつかない取り壊し分の一部に充てられればいかなというふうに思っています。総額で4億円なんですけれども。
町長	4億円の一部ってどれくらいですか。

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発言者	発言内容
総務課長	例えば、2億円から3億円くらいですかね。
町長	財政のほうから4億円分の2億円から3億円くらいを目途に、何年かかりますか。最短で。
総務課長	開校が令和15年度にずれますので、開校の1年後2年後となると17年。令和6年度からでも、最短で11年になります。
町長	目標が2,000万円としたら、2億2,000万円。解体費が上がる可能性はありますけれども。
委員	今、先送りするのは仕方ない部分かもしれないんですけども、今までこれから学校関係の施設関係が老朽化している部分で、この工事をしたいというのが始まりなんですよね。それに対して、先送りされた部分でこれから施設を使っていく部分に支障をきたしている部分の改修だとか何かの手当てや何かは、確保されるのでしょうか。
町長	その部分に関しては、そこの現状使っているところの手当てが優先課題になります。ですから、例えばさっき今積立の話をしたのですが、現状の生きて動いている教育の中で必要なものの手当てが最優先になって、その残りを出来るだけ積むという形にしていかないと。
委員	確約されてかないと、中で教育を受けている子ども達に支障が今現在出ているのだから、それを我慢してもらっているところなんですよね。現状でいけば、出ているというのは、いろんな改修や何かは、いずれ校舎が建つだろうから、その部分の大きな改修はやめましょうね、抑えている部分がたくさんあるはずなんです。そういうところは、それも今後我慢して下さいねで5年10年先送りずっとしていくのかいということです。
町長	教育の支障のレベルによりますけれども、現時点でこれはどうしても小破修理ですまないということになった場合は、そこの手当てはせざるを得ませんし、5年10年先になることによって、我慢出来るものと出来ないものの仕分けをしないとイケないので、そこは綿密に打合せしながら動きたいと思います。
副町長	例えばなんですけれども、どういう部分でしょうか。

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発言者	発言内容
委員	<p>まず防水にエアコン。今言った、寒いので暖かいので言えば、こういう室内空間の環境を良くするという部分。今、いろんな部分で手当てとして空気清浄機や何かで小中学校に持っていったらいいけれども、実質音がうるさくて授業の教室の中であれを完全にマックスで使っていたら授業にならない。大雨がくると至る所から雨漏りがしてくることもある。小学校も同じ。それは、風の強い時とか条件にもよるんだけど。そういう漏水関係というのは、ちょっとやそつじゃわからない。ガラスが割れてて、そこから水が入るとかという問題じゃないから。後で言おうと思ってたんだけど、維持管理というのがこのマチすごく何というか不得手というか、ここまで行きつかないとやらない感じがあまりすぎる。だから一気にお金がその時期にかかる。そういう維持管理のセクションをちゃんと作っておかないと、ここは教育委員会、建設課、企画課と違って、その部門だけで持ってたなら、その課でお金を持ち切れないと思う。そのセクションだけで出そうとしたら、他で出そうとしたら最優先はどこですか。みんな最優先で出していると思う。そういう維持管理の年度計画というのは、ずさんすぎると言うか、だから実際に維持管理みたいなのがきちんとどっかにあるんだろうと思うんだけど、各課にもいてそういうような予算立てをするにあたって、ちゃんとやっていると、その額が大きくなれば動けない。それは建設課ですよ、建物の管理は教育委員会ですよ、最終的に工事をするのは誰なんですか、それを手当てする人は誰なんですか。だって、今のこの話とかは事務方の話ですよ。みんな最優先で出してくる予算なんだから、どれを削っていいわけではないはずなんだと思う。だから、うちのマチはこれからどうするんですか。何を特化してやっていくのかというのが見えないし、全てを優先させたら全部駄目になってしまうし、漠然とした意見として言ったけど。みなさん、このマチに住みたいと思えるようにしたいわけですよ。周りからみて妹背牛町っていいですね。だから何を特化して、それを打ち出していくのか。直すばかりしていたら、そこに入りたい人は器があって当たり前という感覚でしかないんですよ。すいません。そういうことなので、進めて下さい。</p>
町長	<p>特化するというのが、しにくいマチというところがあります。それこそ各課が予算を出して、その課で一番これを今年やってほしいというを出してきますけども、全部潤沢にそこを納めることは出来ないの、どこかをカットせざるを得ないんですよ。ですから、変な話ですけど手当てしながら生き延びてくれるマチがということはお存じかと思うんですけども、特化したほうがいいという考えと、ちょうど両極の話なんですよ。維持管理していくことと、何かに特化して力を入れるということは、ちょうど綱引きの中で引っ張り合う話で、両方じゃあどこで落とすところを探すのかというのが一番の行政の要の部分だと思うんですけどね。維持管理の中で、一番酷くなった時にしか手当てをしないから、こんなに大きくかかるんだと、そういうふうに見えるのは事実だと思うんですよ。でも、我慢しなければならぬ時ってあるんですよ。別にそれを学校に我慢しろと言ってるんじゃないですよ。みんな、いろんなところで我慢してくれているんですけども、これが先延ばしになるっていうことは、先ほど動きが凍結すると言いましたけれども、今財政をギリギリまで持っていくと、例えば小中学校の給食費無料化に動いたお金の流れも、お金を積みまなきゃいけないってことになるので厳しくなったら、それは戻していく、後退していかなければいけないという流れにもつながる可能性もあるんですよ。ですから、全部をまんべんなくというのは出来ないし、これだけに特化する動きというのはしづらいというのは、ご指摘のとおりです。その中で、よりベターなもの何かというものを追いかけるを得ないというのが現状です。</p> <p>委員さん、よろしかったらご意見を言って下さい。</p>
委員	<p>令和15年から20年の間に校舎を建てることになると、児童生徒数はどれくらいまで減っていくのですか。</p>
教育長	<p>児童生徒数は、出生がはっきりしてる時期から6年7年後は見込みを立てられますが、人口に比例しているわけではないので、なかなか難しいと思います。減っていく傾向は間違いないと思うんですけど。間違いなくそれだけ減れば、必要なキャパは変わってくる可能性はあります。</p>

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発 言 者	発 言 内 容
委員	これだけ15年とか20年というふうに、建設が延びていくのであれば、入る人数も少ないことになると意味があるのかどうなのかというところまでいってしまうのではないかと気がします。人口が2,700人から2,500人になると言っている中で、これから北空知というふうに考えた時に、人口がまだまだ減っていくという可能性はあるので、そこらへんで昔あった町村合併みたいな考え方で、学校自体を北空知で運営出来るような格好、今の給食センターが北空知一円で動いているわけですけど、そのような形の学校に出来れば児童生徒数も多くなって、少年団や部活動でも、人が少なくて出来ないということがある程度は人数が揃うので出来るような形が取れるんじゃないかなというふうに考えるんですよね。だから、そういうような話もこれとはちょっと離れちゃうんですけど、そういうような形の考え方も少し入れていって欲しいなと思います。
教育長	北空知圏域での、あらゆる分野の検討の中に教育というのも過去には検討されていたけど、やはりそうなるかと新たに一部事務組合を作って議会も作って、全部のジャンルで検討して、その中の教育だとか広域で学校を統合するみたいな話も過去にはあったんですけど、やはりそうなるかと保護者反発が大きいんですよね。遠くに通ったりとか、部活とか少年団を考えると、そういうデメリットもあるし。
委員	今のままでいくと、どうしても何人かで一クラスになってしまうので、今現状になっているところもあるマチもあるし、そういう面で見れば仲間が出来る分にはいいのかなと気はしますけどね。
教育長	複式学級ばかりだとか、そこまで小さくなってくるとよりそういう検討がもしかしたら具体的に進むのかもしれないんですけども、そう言いながら各マチで校舎をどうのこうのと単独で考えちゃっているのが、今足並みを揃えるというのが難しい部分もあります。
町長	大きな一つの方向性の意見として、お伺いさせていただきます。
委員	財政的なものも、どこのマチに行っても結構大変だとは思いますが。
町長	他に、何かありませんか。
委員	やっぱり、各市町村に小学校中学校というのがあったほうがいいと思うんですけど、市町村合併の学校とかもあるんですけども、大きいし小さいし、妹背牛は妹背牛で小中学校一つボンとあれば、北竜は北竜であるとか、秩父別は秩父別であるとか、親の関係もあるし他の町村と合併して建てたら、いざこざではないんですけども、いろんな話が出てくると思うんですよね。こういうマチに所属する一貫校みたいな学校が一つあれば、それは大きさはいろいろと検討していかなければならないんだろうけど、そのほうがいいと思うんですけどね。
町長	他に、何かありませんか。
委員	最初の財政のほうに戻るんですけども、開校を先送りにするということは、簡単に言ったら財源が少ないということですよね。これは、毎年毎年締めで、いつくらいにわかったのでしょうか。前々からわかってたことなのか、全体的に予算が実は少ないというのがわかったのはいつなんのでしょうか。

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発言者	発言内容
副町長	財政推計は毎年決算が終わるたびに翌年以降のものを見てたんですけども、今回は建設費用がこれだけかかるという試算が遅くなってしまって、今こういう場でみなさんにお話をさせていただいているということなんですよ。うまく財政サイドと教育委員会サイドで調整が出来なかったところだと思います。
町長	貯金が少ないというのは事実なんです。うちではお札を刷れないので、国と違って。
委員	財政推計というのは、何年先まで作っているのですか。
副町長	まちづくり計画の期間内で10年やっているんですよ。今、うちで集約している建設事業というのは毎年新しいものも出てくるんですけども、12年以降は先ほども言ったんですけど、まだ各課から集約していないんですよ。それで、12年度以降はちょっと不明なんですけれども、11年までの建設計画みたいなものは含まれていて、それをこの表で示しています。それが、当初18億円程度のものが31億円に膨れ上がったというか、そんなん将来的に厳しくなるということがわかったんですよ。これは毎年作っています。ただ、期間内だけです。11年度までです。
総務課長	第9次のまちづくり計画が10年間で、11年度までということになっているものですから、それをベースに考えていて、毎年事業期間直近3年間を特に注視してローリングをかけていく。実際にやれる事業、やれない事業、その年によってどんどん変わりますので、10年先の計画は作りますけど、実際には近くになってみないと、もっと必要だったり先にやっちゃったり、逆に新しいものが増えたり、いろんな状況が変わってきますので、それに応じて毎年事業計画自体もローリングをかけて財政推計をまた新たに作ってというようなやり方はしております。その中で今回、予定をしていた工事費が非常に高額になったというのが直近に副町長が言ったとおりわかったものですから、改めて財政推計にのせてみると後年次非常に厳しい状況がというのが改めて浮き彫りになったところだと思います。このままいくと先ほどの説明につながる形です。
委員	大きいですね。18億円と31億円では。
総務課長	それに解体費も入れると、2校解体するという前提にすると改築であれば1校でいいんですけども、使える予定がつけばもちろんプラスにはなるんですけども。
委員	実際に先立つものがなければ。最初の当初の予定でいくと、私自身としては準備が箱が出来ても中に入る準備段階が整わないというか、さっき言った特化というのはその学校がなくなるとマチが衰退してしまうと思う。どこのマチに行っても、学校が統合して、統合されたところはいいんですけども、なくなったところは衰退の一途なんですよ。これは絶対マチには学校をなくしてはいけません。周りで人口が少なくなったから、あっち行けばいい。行ったところの学校が立派になったら、みんな住民そっちに移動する。だから、そういうのではなくて箱が出来たら、そこに入る人のためにどうなるのかというビジョンが見えないと、作った方がいいけど結局宝の持ち腐れになってしまうから、そういう準備が少し先送りして準備出来るのであれば、それは越したことはない。そこに向けて、やはり中に入るハードが出来たらソフトの部分を蓄積していったって、でも遅れれば遅れるほど二番煎じになっちゃったら、一番いいところにみんな寄ってってしまうから、妹背牛町に住みたい、あそこで勉強したいという準備期間が出来たのかなという部分で取り組んでいかないといけないのかなと思うけど。残り全部に、学校教育だけじゃないよ、妹背牛に来たいという部分を打ち出さないと。それを全部いろんな面で広げすぎちゃうと、やっぱりどれが本当なんだろうと。経済が成り立つためには人口が増えないと、収入が入らないと出すものも出せない。人口がこうやって減っていったら、収入源が全然減る一方。妹背牛で家建てて、子どもを育てたいというマチになってくれないと。

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発 言 者	発 言 内 容
町長	<p>今、最後に時間がある中で、ソフトな部分をこれから詰めていく時間が逆に使えるという意味では、ポジティブな見解だと思いますし、それから先ほど教育環境を維持していくという面では、そこに力を逆に入れすぎると積み立てどころの話じゃなくなるので、それも限度があると思うんですよ。おそらく、委員の皆さんも木造の校舎で古い校舎で私たちと一緒に過ごして来られたと思うので、寒い暑いということも子どもの教育の経験の中でいくんですけども、もちろん教育環境が非常に快適だというのは素晴らしいことなんですけれども、その快適の度合いというのも、その地域地域の限度というものがあるんですよ。ですから、最高に快適なものを目指してそこで他と勝負するという意味で、私たちのマチは勝負するということが常に出来るとは限らないので、そこもやっぱり教育委員会と教育委員のみなさんと現場、PTA、学校と財政当局と相談しながらどこを今攻めていけるかということ、これから緻密にやっていきたいと思えます。それまで放っておいて、突然そこにバーンとお金があるから今年積み立てが出来ないとならないように、出来るだけ知恵を結集して、緻密にやりながらこの建設計画に向けての準備と期間を教育に関しては働きかけていきたいと思っていますし、そういう意味では、またご協力いただきたいと思います。あと何か協議することが、みなさんの中でありましたらご提案下さい。</p>
委員	<p>最後に一つ。今回の教育関係とか学校に対しての足りないという部分があったんですけども、学校教育以外の例えばペペル関係とか、そういうので何か影響するものはあるんですか。全体の財政の部分で、学校関係のものだけが少ないっていう、この金額だったからってことですかね。</p>
町長	<p>第9次の計画の中にあるやつで、先ほど言いましたように18億円で出されたものを圧縮して載せざるを得ないんですよ。数字合わせるために、2割圧縮して載せているので当初、ですからそこで2割圧縮されているものだから、動きづらいですけども、それを毎年毎年調整していきながら、これじゃ出来ないよとか、これは出来るよという話を詰めていかないと、最後にドカーンともし31億円出された時でも協議する段階じゃなくなっちゃうんですよ。ですから、これからやっていくのは毎月毎年例えば2千万円づつを目標にして積み立てていきながら、令和15年開校あるいは令和20年開校に向けて、これ行けそうとか、まだちょっとお金が足りないとか、そういうことでやっていくんですけども、ペペル温泉というのは、はっきり言って例えばボイラー、いろんな配管がもう限度を迎えていて、いつストップしてもおかしくないっていう耐力診断をもういただいでいて、毎回今も真空ポンプに見えないピンホールという穴があいているんですけども、そういう動きの中できているところなんです。だから、先ほど委員さんがおっしゃったのも耳が痛い話なんですけども、そこにも大きな投資をするともうその段階で他のものの動きが止まってしまうんですよ。家計と一緒になんで、ここにお金を使うとこっちは我慢してねとなるんですよ。今動いているものをどうやって維持しながらやっていくかというのは、補修後限界ギリギリの中で動いているのは事実です。ですから、今回ペペル温泉が10億円で7億円の国から補助があつて、3億円を例えば10年間かけて、稼ぎ出していくと、5千万円くらいが実費だということになるまでの時間の間もお金を返し続けられないじゃないですか。ペペル温泉ももし全部やり替えて、別の場所に移すんだったら20億円は最低かかっちゃうんですよ。そしたら、他のもの全部、給食費半額全額はとんでもない、給与もカットだということにならないと最高のものは出来ないんですよ。最高のものを目指しちゃうと。うちとしては、表側は化粧直しはするけど、中を変えると、最低限で10億円まで圧縮して、やらざるを得ないという中で、例えば資材のレベルを素敵な形だけちょっとレベルを落として、いろんなことを組み合わせながら、動いているのが現状なんです。ですから、全てに影響が出ています。ここだけが影響を受けているわけではなくて、全てに影響が起きているということでご理解いただきたいと思います。</p> <p>財政のほうから他に何かありますか。 教育委員会から何かありますか。</p>

令和4年度 妹背牛町総合教育会議議事録

発 言 者	発 言 内 容
教育長	<p>さっき公表する時期がタイミングが、やはりうちもそこがはっきりしてから、マスコミや建設新聞にも発信している部分もあるし、教育局のほうも実はそういう義務教育学校になったら、校長の数が1名減るので、先を見据えた校長人事をやるので教えてくれと局長に言われている。そういうのも、いろいろと絡んでくるので、公表後にそこらへんにも発信したいと思います。</p>
町長	<p>それでは、今のところ議論が出尽くしたということで、後年次にうつり最短では令和15年あるいは令和20年の間で、その間に何が起こるか分かりませんが、そこを目指して教育委員会のほうでは「特定目的基金」を設置していただきまして、財政と毎年すり合わせしながら、これぐらい積める、一応2千万円を目指しながら、出来る限り頑張っていきたいと思っておりますし、それから先ほど委員さんご指摘なされたような、今いる子ども達をただ我慢させるのではなくて、出来るだけいい教育環境の中で過ごさせたいということでは、維持補修に関しても財政当局とすり合わせながら、その部分をケアしていきたいと思っております。それから、ちょっと先の話かもしれませんが、市町村合併というものはなくなりましたが、教育において例えばそういう一部事務組合の形の形式の教育というものが、どこから声が上がるといっては、高校だけでも充分私たちは体感しているところですし、近くでは納内町の姿も見てますし、あそこはたまたまクラークというところが後からきたんですけれども、そんなふうに私立が動くわけではなくて、公立学校が消えるということの大きな重みというのは、各委員さんからも伺いました。そのことに関しまして、第9次まちづくりの中の大きな目玉だったんですけども、本当に私も意を尽くしませんけれども、町民の方、生徒の方、PTAの方、みなさんに期待を持たせたということでは、忸怩たるものがございます。これから、1年1年と言わず、ことあるごとに財政部局と教育委員会と力を合わせて、このまちの建設、子ども達のために私も頑張っていきたいと思っておりますので、今日のところはご理解をいただいて、この場にて散会をさせていただきたいと思っております。今後につきましては、きちんと連絡を取り合っているような多方面に迷惑をかけないように調整していきながら、妹背牛は後年次に延ばすけれども、やっていく姿をしっかりと示しながら、みなさんのご協力もまたいただきたいと思っております。本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。お疲れ様でした。</p>